

なかの 市議会だより

5月号

2023年(令和5年)
5月5日発行
No.72

発行 長野県中野市議会 編集 中野市議会だより編集委員会

●ホームページ <https://www.city.nakano.nagano.jp/> ●Eメール gikai@city.nakano.nagano.jp



子育て支援拠点施設 「HUBLIC」 オープン

3月30日しゅん工式▶



開会	2月28日
閉会	3月17日
会期	18日間
●議案件数及び議決内容	
条例案	7件 可決
予算案	10件 承認 可決
事件案	4件 可決
人事案	3件 同意 適任
陳情	1件 不採択
●市政一般質問	36件

3月定例会



松樹 純子

移動販売車について

質問 昨年3月に運行が始まった豊田地域の移動販売車の状況は。

答弁 市から見守り等依頼している26世帯への訪問も併せ、週に3〜4日、移動販売を行っている。昨年12月からは、豊田地域の「小さな拠点」とも連携し、地区集会所の巡回も行い、利用者も増加している。

質問 長嶺地区で運行している移動販売車の導入経緯と実施状況は。

答弁 本年1月から本格運行が始まったが、「なかのなつちよ隊(だい)」での協議が運行につながった。毎週金曜日に集会所に1時間ほど停留し、20人ほどが利用されているとのことであり、区の役員の方々をはじめ、ボランティアの皆様の協力で円滑に実施されている。

質問 移動販売車を導入したことへの評価は。また、今後、移動販売車の活動地域を拡大する考えは。

答弁 買い物機会の確保だけでなく、コロナ禍で交流の機会が減っている中、地域の交流の場としての役割も果たしている。今後も、買い物に不便を感じているとの意見の多い地域と調整を図りながら、販売場所の増

設に向けて、事業者および関係機関と協議していく。

学校給食への異物混入について

質問 異物発見からの対応の経緯は。

答弁 生徒が異物を発見した後、担任に申し出て、担任から教頭、教頭から校長および学校給食センターへ連絡があった。連絡を受けた学校給食センターでは、異物の確認と今後の対応のため、直ちに学校を訪問し、異物および状況の確認を行った。

質問 混入異物は何で、何に混入していたか。どの過程で混入したのか。

答弁 混入異物は5mmほどの細い金属だった。どの過程で混入したかは現時点では判明していないが、異物発見の翌日に、給食センターの調理器具の点検、清掃を実施し、金属製調理器具は樹脂製のものに交換した。また、食材納入業者にも今後の納入について注意喚起を行った。当該生徒の保護者には、当日お詫びをした。

質問 今後、児童・生徒、保護者、市民に改めて説明の機会を持つのか。

答弁 現在、異物の材質検査を検査機関に依頼しており、結果が出次第、保護者へのお詫びと結果報告を行う予定としている。また、今後は衛生管理を一層徹底していく。

その他の質問

・中野市きのこ・果実消費拡大実行委員会について



高木 尚史

財政援助団体等監査報告書について

質問 監査は、市が書類等を作成保存してこなかったために限界があったと思うが、監査結果の意見・改善に対する市の見解と対応はどうか。

答弁 意見の内容を真摯に受け止め、再発防止に取り組む。団体事務従事取扱規程を制定し定期的な人事異動を実施し、適正な事務執行に努める。

質問 実行委員会の目的実現のためのものと判断した根拠と事業復命書、引継書の確認はどうだったのか。

答弁 事業の実施状況や請求内容は総会資料のほか、受注業者からの提示資料を確認した職員に聞き取りし、判断し、引継書は確認していない。

ふるさと寄附金(納税)について

質問 令和5年度予算でふるさと寄附金を20億円見込んでいるが、寄附金の実績と増加の分析はどうか。

答弁 令和2年度が約5億7千万円、3年度が約13億7千万円、4年度は2月末で約17億9千万円。返礼品としてシャインマスカットなどの果物が選ばれており、大手ポータルサイトを新たに導入したことなどが寄附

の増加につながったと考えている。

質問 寄附金の使い道は環境保全、都市基盤整備、教育関係、文化振興等と市長が選定する政策事業としているが、主な充当事業は。

答弁 令和元年度は教育関係等4千万円余、2年度は文化振興等1億5百万円余、3年度は市長が選定する政策等1億8千万円余を活用した。

質問 従来は、寄附金を基金に積み立てて繰り出す対応をしてきたが、一般財源扱いとする根拠は何か。

答弁 寄附者の意向を反映させることが原則と考え、基金には積み立てずに活用し、残額は基金に積み立てた上で活用していく。

一本公園駐車場整備事業について

質問 昨年6月定例会で、実施計画を1年前倒しで補正予算を計上してからの事業の進捗状況はどうか。

答弁 土地売買および物件移転補償契約の締結が完了した。工事は業者が決定し準備を進めている。

質問 住民説明会で出された意見とその対応はどうか。

答弁 目隠しフェンスの設置やバラまつり期間中の歩行者の誘導計画などの意見をいただき、設計変更など見直しをして、改めて説明会を行う。

質問 今後の事業執行計画は。

答弁 用地費は所有権移転登記が済み次第支払う。また、繰越明許をして工期延長し、5月中旬に完成予定。



渡辺 菊男

観光の振興について

質問 今後の観光政策の展望と具体的な施策は何か。

答弁 歴史、自然、伝統、文化、食など多様な魅力を一体的につなぎ、地域の魅力を生かした観光地づくりの推進を基本方針とし、滞在型の農業体験やサイクルツーリズム、中野ひな市、バラまつり等への誘客や、まち歩き、アートワークショップ等、新たな視点での戦略を取り入れたい。

質問 観光資源、交通網、情報発信の整備に対する考えは。

答弁 観光資源の魅力発信のため、SNS、ポータルサイト、ダイレクタメール等を活用し、公共交通機関や新たなアクティビティを利用した観光ルートの情報提供を行う。今年度は北陸方面へのPRを実施し、新聞広告等への反響も大きかったため、今後も継続したい。

駅前活性化のための図書館リノベーションについて

質問 駅前活性化に対する思いは。

答弁 宿泊施設の開業を控え、新たな交流が生まれることを期待しつつ、

地域経済活性化のため、賑いと活力あるまちづくりを進めていきたい。

質問 駅前活性化における図書館に対する考えは。

答弁 駅周辺の賑いにつながる施設として飲食もでき、幅広い世代が利用できる「本のある広場」として、新たな活用を図ることが活性化への一助になると考える。

質問 令和2年11月に提案したプロジェクトのサウンディング型市場調査の進捗状況は。

答弁 2月28日から開始し、5月中旬には実施結果概要の公表を行う予定。

都市交流の促進について

質問 来年度に予定している国内都市との交流事業は何か。

答弁 学校新聞特派員事業として、

豊田中学校の生徒を姉妹都市である北茨城市へ派遣するほか、知音都市交流を本市で開催する予定。

質問 都市交流に対する将来への在り方と取り組みは。

答弁 さまざまな分野の交流を重ねることで相互の地域活性化が図られるため、今後も継続し、農産物や音楽での交流の充実を図っていきたい。

質問 海外都市との提携を、将来に向けてどのように考えるか。

答弁 現在の都市交流の継続と充実を図るとともに、国内外にとらわれず、本市の発展のために必要な交流について検討していきたい。



江口 栄光

高社山の観光等について

質問 市の観光資源としてどのような位置付けているのか。また、今まで行ってきた取り組みは。

答弁 年間を通じ、登山やスキーなどのアウトドアアクティビティができる重要な観光資源の一つとして考えている。また、公式ホームページで登山ルートガイドを動画で紹介したり、信州なかの山歩きガイドを作成して市の観光PRに努めている。

質問 登山道の管理状況と景観を整備する考えは。

答弁 安全で快適な登山を楽しめるように、障害となる立木の伐採および下草刈りを行っている。現在も景観の良いポイントがあるため、新たな景観整備は考えていない。

質問 心配なく登山ができるよう、途中にトイレを設置する考えは。

答弁 年間を通じての維持管理が困難なため、設置は考えていない。

質問 赤岩登山口に駐車場を増設する考えは。

答弁 駐車場の利用状況を調査し、設置の必要性を研究していく。

質問 高社山麓の景観を生かしたクラインガルテンを設置する考えは。

答弁 簡易宿泊施設を備えた市民農園で、交流人口増加のきっかけとなる事業。県内には多数あるが、高社山からの景観は本市の強みであり、今後、設置について研究していく。

農業振興について

質問 農業所得を持続的に向上させる対策をどのように考えているのか。

答弁 農家やJAからの要望、市場動向等を的確に把握し、所得向上につながる事業を展開していきたい。

質問 農業に関する情報の発信はどのような方法で行っているのか。

答弁 補助事業や研修会の案内、農業気象災害防止に向けた技術的な助言等の情報を、シンボルマーク活用者へ電子メールで送信しているほか、公式ホームページで周知している。

質問 農業関連団体との連携はどのように行っているのか。

答弁 補助事業実施の相談や説明会を連携して行い、農業者に対する必要な支援を行っている。

質問 農業振興の妨げとなる鳥獣害対策への考えは。

答弁 恒久柵は耐雪試験の実施結果を踏まえ、導入に向けて検討する。緩衝帯の整備は広域電気柵周辺を中心に継続的に整備を進めている。廃果等の放置防止対策は、中野市農作物害鳥獣駆除推進協議会を通じ、廃果等の除去に係るチラシを全戸配布し啓発を行っている。



中村 秀人

障がい者(児)の暮らしやすい地域づくりについて

質問 市内におけるグループホームの設置状況は。

答弁 現在市内に11の施設が開設されており、定員の合計は75人である。

質問 施設内環境を把握しているか。

答弁 事業所の指定権者は県であり、市では詳細を把握していないが、定期的に県と合同で実地指導を行い、状況把握に努めている。

質問 就労支援事業所の利用により雇用の促進を図るべきではないか。

答弁 現在、市内の就労継続支援A型事業所で8人、B型事業所で119人が一般企業での就労に向けて訓練を実施しており、引き続き、事業所と連携しながら雇用促進に努めていく。

質問 障がい者施設での虐待等の現状と対応は。

答弁 虐待の通報は令和元年度が2件、2年度が0件、昨年度が5件、今年度が現在1件である。いずれも、関係者への聞き取り調査では、虐待案件とは認められていない。

質問 小・中学校におけるパラスポーツ、文化芸術活動の取組状況は。

答弁 講師を招いての点字体験、地域の方とのボッチャでの交流、車いす体験、市内にお住いのボーカリスト山浦未夢さんとの交流コンサートなど、各学校の地域性や特色に合わせ実施している。

消防団活動の充実について

質問 機能別団員の募集人数達成のための採用計画はどうなっているか。

答弁 来年度機能別団員100人を目標として、水防員や消防団退団予定者等に幅広く声掛けし、募集している。

質問 ポンプ車運用の充実を含め、入団特典付与として準中型免許取得助成制度を創設してはどうか。

答弁 ポンプ車は中野市消防団組織再編計画に基づき配備運用しており、現在考えていないが、今後、消防ポンプ車を運転できる団員が減少してくるから研究していきたい。

質問 消防団に向けた災害救助についての講習会を開催してはどうか。

答弁 現在、消防職員による災害対応講習会を定期的に開催しているが、今後は救助技術だけでなく災害に対する知識も含め、さまざまな災害に対応できるように講習会等を開催していく。

質問 災害対応ドローンで効率的に現場対応をしてはどうか。

答弁 現時点で団員による実施は考えていないが、来年度、岳南広域消防組合で導入するため、市としても災害時の情報共有を図っていきたい。



宇塚 千晶

道路に越境した樹木等の安全対策について

質問 私有地から公道に長く伸びた樹木の枝にぶつかり転倒したほか、公共交通のバス路線に覆いかぶさった枝で見通しが悪く対向車との行き違いに支障がある等の相談を受けた。対策をどのようにしているのか。

答弁 樹木等が道路にはみ出ていることが原因で車両や歩行者に事故が発生した場合、所有者の責任が問われ、損害賠償に至るケースもあるため、所有者にその都度依頼しているほか、広報なかの等で周知している。

質問 依頼してもスムーズに対応いただけないケースもある。道路法第44条「沿道区域における土地等の管理者の損害予防義務」に基づき条例を制定し区域を指定すると、道路管理者は道路に危険を及ぼす竹木や工作物等の所有者に対し、必要な措置を講ずるよう命ずることが可能となる。条例制定についての考えは。

答弁 区域指定により沿道の私権に制限等がかかるため、研究していく。

質問 道路管理者が枝を切除できるとした改正民法第233条第3項を最終手段として行使することは可能か。

答弁 催告しても応じてもらえない場合は、適用していきたいと考える。

保育・教育の充実について

質問 不登校の児童・生徒への支援のため、県でフリースクール認証制度等を検討されるとの報道があった。児童・生徒の家庭学習、通塾、ICT教材の活用、音楽・スポーツ・ボランティア活動等に対し、積極的な評価を行い成績に反映させることが、本人のやる気を引き出し進学へつなげていくために必要である。出席扱いと評価の実態は。

答弁 通知表の所見欄にどのような学習をしたか記載して伝えている。また、指導要録には、本人の学びや頑張りなどを記載している。高校進学で必要となる調査書に評価や評定がつかない場合、文章で学習の様子等を記載している。市教育委員会として出席扱いや評価に明確な基準はないが、文部科学省の通知等を参考に柔軟な対応を行っており、出席扱いとした児童・生徒もいる。

質問 学習のつまづきを子どもが自ら解消することは困難な場合がある。学校以外の方法で学習する場合には経済的負担が重くなる。不登校への対策や貧困の連鎖解消のため、通塾等への経済的支援を行ってはどうか。

答弁 不登校の児童・生徒の居場所づくりの支援を含め、保護者の負担を減らせる仕組みを研究していく。



笠原 豊

リトルベビーハンドブックの導入について

質問 低出生体重児の家族へどのような支援を行っているのか。

答弁 子どもの成長や出産した母親の状況などを確認しながら、家族の立場に立った切れ目のない支援ができるよう、訪問や面談を行うほか、関係機関とも連携し支援している。

質問 市としてリトルベビーハンドブックを活用してはどうか。

答弁 県は、来年度、県立こども病院と共同で2500g未満の低出生体重児を対象としたフォローアップ手帳を作成し、市町村へも周知を行う予定であり、市としても引き続き活用していきたいと考えている。

市民発の健康づくりについて

質問 中野市健康づくりポイント事業で、令和5年度導入のスマートフォンアプリの内容は。

答弁 毎日歩く、健診を受ける、健康イベントに参加することでポイントを貯め、特典と交換できる。歩数は見やすく表示され、消費カロリーや歩行距離などのグラフ表示、年代

別など複数の歩数ランキングの表示、ウォーキングコースの配信も可能。

参加者専用のページでは、体重、血圧、睡眠時間を記録したり、毎日体操するなどの日々の目標を自分で設定してチェックも可能。特典の交換申請もアプリからできる。

質問 高齢者への健康づくり支援は。

答弁 理学療法士や健康運動指導士等を派遣し、グループ活動継続支援や立ち上げ支援を行っている。

道路損傷の通報等について

質問 SNSを活用し道路等の損傷の通報システム導入を検討しては。

答弁 SNSの進展に合わせDXの取り組みの一つとして、今後、先進事例等も参考に検討していく。

質問 災害時など全市的に活用できる通報システムの検討状況はどうか。

答弁 LINE公式アカウント等、既存のツールの有効活用を含め、最適なツールの選定に向け、情報収集している。試行導入した地域情報配信システム「ライフビジョン」は、市や区からのお知らせ、広報紙やハザードマップの配信、簡易なアンケート機能を中心に運用している。

質問 目指している採用時期は。

答弁 今年度は効果検証を図る。来年度は、全市的な情報配信ツールとしての活用の可能性、導入に向け組み込みが必要な機能を精査し、制度設計と導入要否の判断を行う。



土屋 博

農作物の獣害対策について

質問 1年中手塩に掛けてきた果実が、収穫を目前に熊に食べられる被害や、冬には鹿による木の上の枝先や樹皮の被害被害があったと聞いている。これらの被害を防ぐための電気柵の設置状況とその効果はどうか。

答弁 市内の広域電気柵の総延長は46kmであり、イノシシやツキノワグマなどの有害獣による農用地や人里への出没を防止している。また、電気柵は各地区の協議会により設置されているため、協議会で草刈りや電圧の点検等を実施していただいている。

質問 平成25年度に電気柵付近の草刈り作業中に崖から転落する事故があった。この事故を受けて、管理方法の変更はあったのか。

答弁 事故を受けての管理方法の変更はない。また、危険で維持管理作業が困難な場所については、地区協議会が作業を外部委託するための費用の一部を、中野市害鳥獣対策協議会を通じて支援をしている。

質問 事故現場に設置した電気柵以外の施設の導入に對してどのようなことを考えているのか。

答弁 約1130mの区間に金網と

トタンを併用した侵入防止柵を設置し、効果として電気柵と比べ、点検・管理の手間が抑えられている。

質問 市内全域を対象とした電気柵以外の施設の導入に對してどのようなことを考えているのか。

答弁 現在、設置要望がある地域には、積雪や地形等の条件、更新時期等を勘案して、トタン併用式電気柵等の導入を検討している。



恒久柵



松野 繁男

ふるさと交流拠点施設について

質問 施設整備の狙いと期待する効果は。また、想定する活用方法は。

答弁 スポーツ・遊び・健康増進を通じた地域の世代間交流を図ること、人々が集まり、相互に育み合い、より良い人材育成や交流が生まれることを期待している。また、日頃のスポーツ・トレーニングや各種スポーツ大会のほか、学生の合宿と連携した農業体験や地元住民との交流、特産品を生かしたマルシェの開催等の利用を想定している。

質問 地域の公園としての活用は。

答弁 無料で利用できる芝生広場があり、一周約330mの園路や子ども用遊具、健康器具を設置する予定であり、多くの方に利用いただきたい。

温泉施設の無償譲渡について

質問 無償譲渡とする考えに至るまでの経緯は。

答弁 利用客の減少や今後の臨時的経費の増大が見込まれることや、営業利益が恒常的に赤字状況となっている。こうしたことから、民間事業者の持つ専門的なノウハウやアイデ

ア等を生かすことで、利用客を増やし、温泉施設の継続を図るため、令和3年9月開催の公共施設最適化部会を経て譲渡の方針を決定した。

質問 無償譲渡の条件は。

答弁 両施設ともに、譲渡後5年間の日帰り温泉施設の運営継続および転売等の禁止期間を5年間とする。

質問 今後の進め方はどうか。

答弁 3月下旬開催予定のプロポーザル審査会で譲渡先候補者を決定し、契約締結後、調整期間を経て令和6年4月1日から移行する予定である。

シルバー乗車券・温泉等利用助成券給付事業について

質問 利用率はどうか。

答弁 令和3年度は51・5%、令和4年度は2月末で43%である。

質問 利用範囲の拡大の意見は寄せられているか。また、高齢者の理容・美容に範囲を拡大してはどうか。

答弁 範囲拡大の意見をいただいているため、令和5年度からはマレットゴルフ場でも利用できるよう用途の拡充を行う。理容・美容への範囲拡大は、令和6年度開始の中野市老人福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定と併せて検討していく。

その他の質問

・ 児童・生徒のマスク着用等について

・ 有害獣対策について



阿部 光則

温泉施設の民間への無償譲渡について

質問 温泉施設の歴史的経緯は。

答弁 住民福祉、地域経済の活性化や雇用創出、観光振興などに寄与することを目的に、平成5年から「ぼんぼこの湯」、平成15年から「まだらおの湯」を運営している。

質問 無償譲渡の理由および条件は。

答弁 利用客の減少や今後の臨時的経費の増大が見込まれること、恒常的に赤字であることから、民間事業者のノウハウ等を生かし、施設の継続を図ることが理由。また、譲渡後5年間の日帰り温泉の運営継続と転売の禁止等を条件としている。

質問 高齢者にシルバー乗車券・温泉等利用助成券を交付し、社会参加していただくことで介護予防や健康維持増進に役立っている。民間への譲渡により障害となるのではないか。

答弁 温泉施設は、大切な憩いの場であるため、譲渡先でも引き続き利用できるような譲渡先と協議していく。

質問 東京一極集中が続いているが、持続可能な地方分散型の日本社会を創っていくには、温泉施設の存在は重要と考える。廃止を視野に入れる

のは慎重に考えるべきではないか。

答弁 地方分散からも、市全体の施策として子育てにやさしい施策、企業の支援、にぎわいの創生、交流等、トータルで取り組むこととしている。

民営化及び指定管理について

質問 保育所民営化におけるデメリット等への市としての考えは。

答弁 問題点は、保育士の入替わりに伴う保育の質の変化、安全面などに對して保護者が不安に感じることなどが課題であるが、市と民間事業者が共同で行う引継保育の充実や質の確保を公募の要件とし、市の指導監査を強化することで安全・安心な保育が継続できるものと考えている。また、特色ある保育の実施・多様な保育ニーズへの対応も期待できるため、引き続き検討を進めていく。

質問 民間の保育に携わる人たちは低賃金だと統計で出ている。会計年度任用職員の賃金は、公が責任を持つことが大事だと思うがどうか。

答弁 国の公定価格で保障しており、給与が低いということではない。

質問 児童センターや放課後児童クラブの民営化や指定管理を考えているのか。

答弁 令和6年4月に指定管理者制度の導入を目指し検討を進めている。

その他の質問

・ 国民健康保険について



中村 明文

物価高騰対策について

質問 水道料金および下水道使用料を減免したかどうか。

答弁 減免を行うことは、将来の料金および使用料の値上げにつながり、使用者の負担増となることから、現在のところ考えていない。

脱炭素化の推進について

質問 公共施設の省エネ改修、LED化の改修計画は。

答弁 新設する施設においては、原則LEDとしており、その他の施設についても、令和7年度までに完了させる予定としている。

質問 再生可能エネルギーとして小水力発電・マイクロ水力発電の導入に向けて検討したかどうか。

答弁 水利権、豪雨時に水路の障害施設となることなどの課題解決が図られれば環境対策、脱炭素化の観点から有効であることから、導入について研究していく。

質問 公用車のHV・EV・FCV・PHEVなどエコカーの導入計画は。

答弁 来年度は、電気自動車を4台

導入する予定である。当面は可能な範囲でエコカーの導入を進め、公用車の台数削減と併せて脱炭素化に向けて取り組んでいく。

中学校の部活動について

質問 本年度から部活動指導員が配置されたが、生徒からの評価と部活動指導員からの要望・意見はどうか。

答弁 生徒は意欲的に部活動に参加しており、保護者等からは専門性の高い技術が身に付き、上位大会へ進むことができた等の意見をいただいている。部活動指導員からは各種大会へ監督として参加できるので評価する意見や生徒と関わる時間が部活動の時間のみで、生徒の性格をもっと知りたい等の意見もあった。

質問 今後の学校間による合同部活動に対する考えは。また、合同部活動は、どの部活動が対象になるのか。

答弁 合同部活動については、各校の部活動への生徒の入部状況等を踏まえ、来年度においても、学校関係者と協議しながら、必要性を勘案し、検討していく。

質問 社会体育・社会教育などの地域と連携した部活動への移行スケジュールは。

答弁 課題を精査し、検討することとしている。

その他の質問

・職員について



原澤 年秋

中野市特別職報酬等審議会について

質問 審議会の開催状況はどうか。

答弁 審議会は、原則、国の特別職の職員の給与に関する法律の改正等に伴い、本市特別職の職員等の給料および報酬月額の設定を審議していただくため、平成18年度、平成21年度および平成26年度に開催したが、平成27年度以降は開催していない。

質問 審議会の委員構成はどうか。

答弁 平成26年度の委員構成は、中野市区長会長、中野市女性団体連絡協議会会長、JA中野市代表理事組合長、JA北信州みゆき代表理事組合長、信州中野商工会議所会頭、中野青年会議所理事長、信州なかの観光協会会長、中野市社会福祉協議会会長、中野市民生児童委員協議会会長の9名に委嘱していた。

質問 今後の審議会の開催はどうか。

答弁 毎年の開催までは考えていないが、県内他市の状況も踏まえ、定期的な開催について検討していきたい。

公金の管理運用について

質問 公金の管理運用方針の策定状況はどうか。

況はどうか。

答弁 既に資金管理方針を策定しており、平成20年6月に設置した中野市公金管理運用会議で、毎年度、公金の安全で確実かつ有利な管理運用方針を検討している。

質問 対象となる公金の適用範囲はどうか。

答弁 資金管理方針が適用される公金の範囲は、歳計現金、歳入歳出外現金、企業会計の基金を除く各基金等である。

質問 公金の運用方法はどうか。

答弁 公金の運用は、会計管理者を委員長とし、基金の所管部長等および企画財政課長で構成する中野市公金管理運用会議において、会計課で作成した公金の年度末残高における運用方針案を踏まえ運用方法を決定している。

質問 運用の決定等の決裁権限はどうか。

答弁 中野市公金管理運用会議での運用方法の決定後、市長の決裁により、公金の運用額、運用方法を最終的に決定している。





芦澤 孝幸

信州中野駅の駐輪場について

質問 信州中野駅南口の駐輪場の管理状況は。

答弁 南口周辺に違法駐輪および放置自転車を確認されたことから、平成28年度に駐輪場の増設工事および注意看板の設置を行った。現在も市職員による巡視を行っている。来年度からは、巡視および自転車整理などの管理を業務委託し、一層の環境整備に努めていく。

質問 駐輪場屋根設置の考えは。

答弁 まずは、以前、駐輪場として利用していた南口階段下のスペースを、鳥の糞害対策などを施し、雨風がしのげる駐輪場として再活用したい。その後、南口全体の駐輪状況等を踏まえ、研究していきたい。

地域おこし協力隊について

質問 退任後の隊員の動向はどうか。

答弁 平成27年度から協力隊の募集を開始し、これまでに14人を任命した。これまでの退任者は8人であり、そのうち7人が市内に居住し、市内外で就業されている。

質問 今後の取り組むべきミッション

ンと、隊員募集人数を拡大する考えは。

答弁 取り組むべきミッションとして、地域の活性化に係る課題を把握したうえで設定する。募集人数については、地域課題の解消に向け必要に応じて拡大していきたい。

認知症対策について

質問 高齢者見守り・徘徊SOSネットワークの利用登録者数は。

答弁 現在、利用者93人、支援者461人が登録されている。

質問 現在取り組んでいる予防対策は。

答弁 定期的な介護予防教室の開催のほか、オレンジカフェやサロン等の開催支援、また、認知症初期集中支援チームにおける医療機関との連携を図っている。

質問 予防対策のための認知症チェックシートを配布してはどうか。

答弁 現在考えていないが、介護予防把握事業において、75歳以上の方に3年に1度、生活機能のチェックを行う中で、認知症の早期発見と予防の取り組みを行っている。

質問 今後、診療料等への支援拡大の考えは。

答弁 今後も医療、介護、福祉等の関係機関や地域との連携強化を図るとともに、認知症の方等に寄り添う認知症サポーターの活動を促進し、ニーズに沿った支援を行っていく。

議会インターネット録画中継

市議会では、本会議のインターネット録画中継を行っています。

インターネット録画中継は、パソコンのほかタブレットやスマートフォンでいつでも本会議の様態を視聴することができます。

是非、ご覧ください。



視聴方法

中野市議会ホームページから「中野市議会中継」にアクセス
中野市議会ホームページ

<https://www.city.nakano.nagano.jp/categories/shigikai/>

配信している議会中継

平成30年5月市議会臨時会分～

配信時期

定例会・臨時会の本会議終了後、約1週間後に配信します。



総務文教委員会報告

総務文教委員会に付託された条例案2件、予算案4件、事件案1件、陳情1件について、3月10日および13日に審査しました。

主なものとして、条例案では、中野市就学相談委員会条例の一部を改正する条例案で、心身に障がい等がある児童生徒に対して、就学相談に加え、就学後においても一貫した教育支援を行うことから、条例名、委員会の審議事項等を変更するため、所要の改正を行うもので、原案どおり可決されました。

予算案では、令和5年度中野市一般会計予算で、予算総額260億6千400万円と過去最大の予算規模となり、議会費1億8千256万7千円、総務費（関係部分）29億8千416万5千円、消防費8億4千63万5千円、教育費18億2千85万9千円、公債費24億894万5千円、予備費5千万円を計上するものであり、原案どおり可決されました。

「冤罪被害者を一刻も早く救済するために再審制度の速やかな改正を求める意見書」提出に関する陳情については、賛成少数で不採択と決しました。

その他の条例案1件、予算案3件および事件案1件については、原案どおり承認および可決されました。

民生環境委員会報告

民生環境委員会に付託された条例案5件、予算案5件について、3月10日および13日に審査しました。

主なものとして、条例案では、中野市国民健康保険条例の一部を改正する条例案で、健康保険法施行令の改正に伴い、出産育児一時金の支給額を引き上げるため、所要の改正を行うもので、原案どおり可決されました。

予算案では、令和5年度中野市一般会計予算で、総務費（関係部分）では、市民会館リノベーション工事費の増額などで28億4千31万4千円、民生費では、子育て支援拠点施設指定管理委託料や出産・子育て応援給付金の皆増などで71億1千266万4千円、衛生費では、健康づくり推進事業費に係る健康づくりポイントアプリ使用料や環境保全対策事業費に係る地球温暖化防止計画策定支援業務委託料の皆増などで14億7千204万7千円を計上するものであり、他の特別会計の当初予算3件と同様、原案どおり可決されました。

その他の条例案4件および予算案1件については、それぞれ可決されました。

経済建設委員会報告

経済建設委員会に付託された予算案7件、事件案3件について、3月10日および13日に審査しました。

主なものとして、予算案では、令和4年度中野市一般会計補正予算（第8号）の専決処分報告について、1月の降雪により、当初予算に計上した市道等の除排雪経費が不足するため、土木費1億を増額されたものであり、原案どおり承認されました。

令和5年度中野市一般会計予算で、労働費7千24万8千円、農林水産業費12億8千792万1千円、商工費18億1千981万2千円、土木費31億7千382万3千円を計上するものであり、他の特別会計および企業会計の当初予算4件と同様、原案どおり可決されました。

事件案では、中野市南永江地区地域交流センターの指定管理者の指定についておよび中野市ふるさと交流拠点施設の指定管理者の指定について、両施設とも地方自治法第244条の2第3項の規定により、指定管理者の指定をするものであり、それぞれ原案どおり可決されました。

その他の予算案2件および事件案1件については、それぞれ可決されました。

陳情

◎「冤罪被害者を一刻も早く救済するために再審制度の速やかな改正を求める意見書」提出に関する陳情

陳情者

日本国民救援会長野県本部

中高支部

支部長 土屋 信行

市議会を傍聴しませんか



手話通訳申請
ながの電子申請サービス

本会議は、自由に傍聴いただくことができます。市政を知る良い機会ですので、是非、お出かけください。聴覚に障がいのある方には、手話通訳者を配置いたします。ご希望の方は、ながの電子申請サービスまたは事前に議会事務局までご連絡をお願いいたします。音声の聞き取りづらい方には、専用の音声受信機の貸出しをいたしますので、傍聴にお越しの際に、議会事務局までお申し出ください。

傍聴等に関するお問い合わせ先

電話 (22) 2111 (内線316) FAX (22) 5922

Eメール gikai@city.nakano.nagano.jp

3月定例会の審議結果

議案番号	件名	審議結果	議案番号	件名	審議結果
議案第1号	令和4年度中野市一般会計補正予算(第8号)の専決処分の報告について	承認	議案第14号	令和5年度中野市倭財産区事業特別会計予算	可決
議案第2号	中野市国民健康保険税条例の一部を改正する条例案	可決	議案第15号	令和5年度中野市永田財産区事業特別会計予算	可決
議案第3号	中野市就学相談委員会条例の一部を改正する条例案	可決	議案第16号	令和5年度中野市中野財産区事業特別会計予算	可決
議案第4号	中野市精神障害者社会復帰施設条例等の一部を改正する条例案	可決	議案第17号	令和5年度中野市下水道事業会計予算	可決
議案第5号	中野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	可決	議案第18号	令和5年度中野市水道事業会計予算	可決
議案第6号	中野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	可決	議案第19号	中野市南永江地区地域交流センターの指定管理者の指定について	可決
議案第7号	中野市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	可決	議案第20号	中野市ふるさと交流拠点施設の指定管理者の指定について	可決
議案第8号	中野市国民健康保険条例の一部を改正する条例案	可決	議案第21号	交通事故に係る和解及び損害賠償の額について	可決
議案第9号	令和4年度中野市一般会計補正予算(第9号)	可決	議案第22号	家屋損壊に係る和解及び損害賠償の額について	可決
議案第10号	令和5年度中野市一般会計予算	可決	議案第23号	中野市教育委員会教育長の任命の同意について	同意
議案第11号	令和5年度中野市国民健康保険事業特別会計予算	可決	議案第24号	中野市監査委員の選任の同意について	同意
議案第12号	令和5年度中野市後期高齢者医療事業特別会計予算	可決	議案第25号	中野市固定資産評価審査委員会委員の選任の同意について	同意
議案第13号	令和5年度中野市介護保険事業特別会計予算	可決	諮問第1号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	適任
			陳情第1号	「冤罪被害者を一刻も早く救済するために再審制度の速やかな改正を求める意見書」提出に関する陳情	不採択

賛否の分かれた議案など

議案番号	件名	渡辺菊男	土屋博	笠原豊	江口栄光	本田将伸	中村明文	中村秀人	塚田一夫	松樹純子	宮島包義	宇塚千晶	青木正道	芦澤孝幸	小林忠一	阿部光則	松野繁男	原澤年秋	高野良之	芋川吉孝	高木尚史
議案第10号	令和5年度中野市一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	×	○	○	○	○	○
陳情第1号	「冤罪被害者を一刻も早く救済するために再審制度の速やかな改正を求める意見書」提出に関する陳情	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×	議	×	×	○	×	×	×	×	○

※ ○は賛成 ×は反対 △は退席 欠は欠席
 ※ 議は議長(可否同数以外は表決に加わりません)

常任委員会 懇談会

2月10日、各常任委員会において、市内で活動されている団体の役員の方々と懇談会を開催しました。

総務文教委員会は中野市消防団と、民生環境委員会は中野市食生活改善推進協議会と、経済建設委員会はJA中野市青年部と懇談しました。

それぞれ団体の活動および現状と課題について説明を受け、意見交換を行いました。



総務文教委員会



経済建設委員会



民生環境委員会

中野市議会議員研修会

1月17日、地方議会総合研究所代表取締役 廣瀬和彦氏を講師に迎え、議員研修会を開催しました。

「政務活動費適正支出のチェックポイント」をテーマとし、議員に対し、調査研究その他の活動に必要な経費の一部として交付されている政務活動費について、交付の趣旨や適正に支出するためのポイントなどの知識について研修を受けました。

また、新型コロナウイルス感染症防止対策として、昨年度同様にオンラインによる研修としました。



長野県市議会議長会総会

1月25日および26日の両日、安曇野市において第169回長野県市議会議長会総会が開催され、正副議長が出席しました。

総会では、退任された各市の正副議長への表彰状の伝達、会務報告の後、令和5年度歳入歳出予算および議長会として国・県へ提出する各市の要望事項について審議を行い、それぞれ可決され、その後、令和5年度の役員改選が行われました。

1月臨時議会

○会期 1月19日 1日間

○議案件数および議決結果

予算案 1件 可決
・令和4年度中野市一般会計補正予算（第7号）

議案等の賛否の状況を公表

議案等の審議結果の賛否について、令和5年3月中野市議会定例会分からは、議会だよりおよび市公式ホームページで公表します

表紙の写真

中野市子育て支援拠点施設が完成



中野市子育て支援拠点施設



令和5年3月30日、旧長丘小学校を活用した中野市子育て支援拠点施設が完成し、しゅん工式が行われました。

施設の愛称である「HUBLIC（ハブリック）」は、中心や拠点を意味する「Hub（ハブ）」と公共や周知されたを意味する「Public（パブリック）」を合わせた造語で、これらの言葉に含まれる公共性、そしてみんなが集まる中心地・拠点として、地域みんなが育んでいきたいとの思いが込められています。令和5年4月1日にオープンし、これからの中野市を担う子ども達を地域みんなが支援していく拠点となることが期待されています。

（写真提供 中野市広報）

令和5年6月中野市議会
定例会会期日程（予定）

○開会日	6月8日（木曜日）
○市政一般質問	6月15日（木曜日）
○委員会	6月16日（金曜日）
	6月19日（月曜日）
	6月20日（火曜日）
	6月21日（水曜日）
○閉会日	6月23日（金曜日）
○請願・陳情について	6月定例会における請願書および陳情書の受付は、5月15日（月曜日）の午後5時までです。
※他の行事等により日程を変更する場合があります。	

第6代前期
議会だより編集委員名簿

（順不同）

委員長	松樹 純子
副委員長	芦澤 孝幸
委員	渡辺 菊男
	江口 栄光
	本田 将伸
	中村 明文
	中村 秀人
	塚田 一夫
	松野 繁男
	芋川 吉孝

あとがき

陽光に春の訪れが感じられる中、中野市議会3月定例会が開会されました。今定例会では、令和5年度予算が審議されました。一般会計では、学校給食費の保護者負担を5割に軽減、保育所の使用済み紙おむつの持ち帰りを廃止するなど、県内でも先進的な思い切った子育て支援事業の予算が上程され、可決されました。

一般質問には、近年では最多の13人が登壇しました。問題意識が違ってもそれぞれの視点での質問は興味深いものでした。

新型コロナウイルスが大分落ち着いて来たとはいえ、今定例会でも、傍聴者の皆様には、傍聴席の制限、マスク着用、手指消毒や検温にもご協力をいただきました。6月定例会は、コロナ前のように行えればよいのですが。

